

和紙職人入門

- 日程 平成24年1月7日（土）、8日（日）、15日（日）全3日間
- 内容 こうぞから紙ができるまでの工程を体験する
和紙を利用したランプシェードづくりに挑戦する
- 講師 福岡小次郎 氏（大ケ蔵連町）
- 参加者 6名（小5・4名、小6・2名）

1月7日、8日、15日の3日間、豊田市小原地区にある福岡小次郎さんの工房で、特別企画・和紙職人入門を実施しました。今年は和紙の原料であるこうぞから和紙を作り、その和紙を使ってボール型のランプシェードを作ります。小学5・6年生、6名が参加しました。

1日目。小次郎さんの工房に到着すると、あいさつも早々に、こうぞを刈り取りに小原北町の永江さんのお宅にお邪魔しました。こうぞを刈り取る前に、まずはこうぞをしぼる縄づくり。手につばをつけてわらを手にとり縄をなっていく。最後は全員分をつなげて、一本の長い縄ができました。縄をなうことが初めての子どももあり、貴重な体験となりました。刈り取ったこうぞは鍋の深さに切りそろえ、みんなでつくった縄でしばって小次郎さんの工房に持ち帰りました。

持ち帰ったこうぞは、寸胴鍋で煮て皮をはいていきます。子どもたちは、想像よりきれいに、つるっと皮がむけることに驚いていました。そしてその後はタクリと呼ばれる、こうぞの黒皮を取り除いていく作業。小刀を使い、1枚1枚黒皮をはいていきます。集中力のいる作業でしたが、子どもたちは冷たい水にも負けず、根気よく作業を進めました。小次郎さんも驚くスピードで、タクリの作業をやり終えてしまいました。

最後は各自作りたいランプシェードにあわせた下準備をして、1日目の作業を終えました。



2日目。まず1日目に黒皮をとったこうぞのちりとり作業。ちりとりとは、タクリだけでは取りきれなかったこうぞの汚れをとっていく作業のことです。子どもたちは、昨日に引き続き冷たい水に耐えながらこうぞの細かい汚れを取っていきました。

きれいになったこうぞをハンマーで叩いて細かくし、水とトロロアオイと混ぜると「ふな水」の完成。ふな水をスコテに流して紙をすきます。まず子どもたちが挑戦しますが、こうぞが均一に広がらずなかなかうまくいきません。小次郎さんによると、こうぞと水とトロロアオイの分量が重要らしく、小次郎さんが割合を調整すると、スコテに均一にふな水が広がり、きれいな紙をすくことができました。

この日はよいよ本格的にランプシェードづくりに入っていきます。今回作るのはボール型のランプシェード。ビーチボールにすいた和紙や、和紙で描いた絵、こうその繊維を広げたものなどを貼り付けていきます。和紙はすいた直後の、まだ乾く前のものを使います。子どもたちは和紙をすいてはビーチボールに貼る、という作業を何度も繰り返し、この日の終わりには、工房のストーブの周りに全員のビーチボールが天井からぶら下がりました。

3日目、最終日。前回ビーチボールに貼り付けたものを小次郎さんが乾燥させておいてくれたので、中のビーチボールを抜き取る作業からこの日はスタートです。ビーチボールを空気を抜きながら小さくし、あらかじめ作っておいた穴から抜き取ります。この作業に子どもたちは思いのほか苦戦をし、中には少し和紙が破れてしまった子どももいました。

電球を取り付けてランプシェードは完成！！電気をつけてみると、これまで見えなかった模様や色が浮かび上がり、子どもたちはどの子もその出来栄に満足の様子でした。

少し早めに完成したので、最後には小次郎さんの案内で小原の山を散策。「この木の名前知ってるか？」「昔はこの道を通って親のお手伝いをしたんだよ」など、小次郎さんにいろいろな話をしてもらいながら、小原の自然を感じました。

3日間お世話になった小次郎さんにあいさつをして、今回の講座は終了。山から自分たちで取ってきたこうそから紙ができ、その紙で自分たちの生活に役立つものができること、小次郎さんの作品へのこだわり、木や山についてのお話など、今回の講座では、紙すきだけではなく、たくさんのことを学ぶことができました。ここでの体験を、ぜひまた思い出してね！

子どもたちの感想

- ・こうそを切りに行って、こうそがどんな木かわかった。紙ができるまでにはいろんな工程があって、紙づくりは大変なことがわかった。
- ・木から和紙ができることにびっくりした。こうその茶色の皮をとる作業が大変だった。トロロアオイとこうその割合で紙のすきやすさが違うので、そこが難しかった。完成したランプシェードは思っていたよりも上手にできていてよかったです。最終日の山登りも楽しかった。
- ・こうそを山から取ってくるのが大変だった。紙を均一にすくのが難しかった。最初はうまく作れるか心配で、大変なこともあったけど、うまくできたのでよかったです。

